

令和7年度 都市ブランド創造局X方針について

■ 局区X方針とは

(概要)

局長・区長等を中心に局・区の経営的課題を自己点検し、変革課題とその解決に向け当該年度の取組事項を定めたもの。

(目的)

- ・局長級職員のリーダーシップ発揮による自律的な変革の推進
- ・局内職員への変革マインドの意識づけ
- ・外部公表による市政変革に関する市民への理解浸透と検討過程の透明性の確保

なお、取組みの進捗によって、抽象的な課題がより具体化した場合等で、課題の追加・変更が必要となれば、進捗等の公表にあわせて、適宜X方針を修正する。

■ 都市ブランド創造局X方針について

(1)課題数 全9件

課題領域	Aレベル	Bレベル	Cレベル
課題数	1件	7件	1件
政策分野	文化、観光・MICE、 スポーツ	文化、観光・MICE、 スポーツ	文化、観光・MICE、 スポーツ

Aレベル……行政サービスにおける現場の改善等にかかる課題

B・Cレベル……政策的な変革課題(Cはより広域、将来を見据え、全庁横断的な視点を要する等)

(2)主な課題・取組内容等

・課題 A ユーザー目線を踏まえた現場改善(資料1のP3)

- 文化施設やスポーツ施設などにおいて、子育て中の世帯や、障害のある方、外国人の方などが利用しづらい設備、サービスがある。また、集客施設であるにもかかわらず、美観を損ねる掲示物などが多数ある。
- 年齢の差異(大人と子供、高齢者など)、障害の有無、言語などにかかわらず、多様な人が利用しやすいサービスの提供を図るため、令和6年度より、ユーザー目線を踏まえた現場改善の取組みを開始した。
- そのため、R7年度については、以下の取組みを行う。
 - ・定例的に利用者のニーズ(生の声)を把握し、現場改善に生かす仕組みづくりを検討する。
 - ・指定管理施設について、関係者と調整のうえ、さらなる現場改善に取り組む。

・課題B 博物館系施設の付加価値向上(資料1の P4)

- 博物館法の改正等により、地域活性化や文化観光の振興など、博物館系施設の役割は多様化しており、施設の付加価値向上により、このような社会課題に貢献する必要がある。
- そのため、R7年度については、以下の取組みを行う。
 - ・博物館系施設のミッションを再確認するとともに、先進事例を調査する。
 - ・有識者会議等を設置し、博物館系施設へ民間ノウハウの活用・導入手法などを検討する。

・課題B 観光・コンベンション施設のあり方(ソフト)(資料1の P8)

- 人件費の高騰などにより、観光施設の運営コストが増加していることや、他都市の類似施設と比較して利用料金が低いことなどを踏まえて、利用料金を見直し、選ばれる観光施設として、魅力ある取組の強化に向けた財源を確保する必要がある。
- そのため、R7年度については、以下の取組みを行う。
 - ・観光施設の利用料金の改定を検討する。

・課題C 施設のあり方(ハード)(資料1の P11)

- 施設の老朽化により、管理費用や改修費用の増加が見込まれる中、今後も安定的にソフト事業を実施するためには、施設の複合化や多目的化等、効果的・効率的な施設のあり方を検討し、見直していく必要がある。
- そのため、R7年度については、以下の取組みを行う。
 - ・旧九州厚生年金会館の老朽度調査を行い、今後の対応を検討する。
 - ・JR小倉駅新幹線口のMICE施設のあり方について、関係局と連携して方針案を策定する。
 - ・皿倉山ケーブルカー・スロープカーにかかる移送手段や、民間活力の導入などについて検討する。
 - ・公共施設マネジメント実行計画の見直し過程において、市内全域に点在するスポーツ施設のあり方について検討する。